

第4回石川県産業成長戦略検討委員会議事録（質疑）

【林委員長】

本委員会は、石川県の新たな産業振興指針の策定に向けて、本県における基幹産業である機械・繊維・食品・IT関連の産業、ならびに産業の基盤となる人材と国際展開からなる6つの部会を設け、委員の方々の精力的な参加をもって検討を進めてまいりました。途中、国の成長戦略を踏まえるために坂根さんを講師にお招きし、その一方で、県内の中小企業に対してアンケート調査を実施いたしました。

このようにして出来上がった産業成長戦略であり、ただいま説明いただいた通りですが、最後に委員の方々からお一人2分程度でご意見をいただければと存じます。澁谷委員の方から田上委員までぐるっと回って、最後に大学側の委員の方からご意見をいただきます。よろしくお願いいたします。

【石川県鉄工機電協会 澁谷委員（機械部会副部会長）】

今、林先生がおっしゃられましたとおり、このまとめていただいた新産業振興指針、指針としてはもうこれ以上ないと、ほぼできあがったとおっしゃられましたけれども、私の方から見てもこれで十分な指針かなと思います。その中で人材育成確保の中で、元気な高齢者の活用ということを経験部会で話が出ました。それにつきまして、労働関連法制、これを何か弾力的に高齢者活用の場合に、法制度をもうちょっと弾力的に企業の裁量でいろいろ弾力的に、労働時間なりあるいは報酬なりにしても、もっと弾力的にできるようなそういうことをもしも国の方へ働きかけていただければなということをやっと思いました。

それからもうひとつ機械部会で出てきましたのが、この行政に期待することがいろいろございますが、実際に予算がどれだけ付くんですかという声が強くございまして、知事さんもいらっしゃいますが、なるべく予算が多く付くようにぜひともよろしくお願い申し上げます。以上です。

【林委員長】

ありがとうございます。それでは伊藤委員、よろしくお願いいたします。

【石川県繊維協会 伊藤委員（繊維部会副部会長）】

繊維部会を担当していました伊藤でございます。繊維業界としては、この戦略協議が始まる前から5カ年の戦略策定を繊維業界ではしております。これをこの10年戦略の中に組み込んでいただくということで提出をいたしまして、この作成された内容にはしっかりと組み込まれているという意味で、業界としても納得のできる戦略になっているなという風に思っております。

特に生き残り戦略、それと成長戦略、これを2本の柱にしておりますので、非常にありがたいという風に考えております。ただ、今後はですね、この戦略を誰が推進をしていくんでしょうか、どうやってプロシードしていくんでしょうかということが当然問題になるわけですが、そこは県と業界が二人三脚ということで実行していかざるを得ないということでもあります。

そうしますと今ほどお話がありましたように、予算の配備を的確にやっていただかないとこの戦略が動いていかないという風に考えております。実行のある戦略という意味で、的確な予算の配備をぜひお願いしたいなど。したがって従来のようなですね、この予算の配備の仕様、やり方ではなく、メリハリの利いた配備をしていただくと我々業界としても実行しやすいのではないかなという風に考えておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

【林委員長】

どうもありがとうございます。それでは佃委員、お願いします。

【石川県食品協会 佃会長（食品部会副部長）】

食品協会の佃でございます。今ほどお二人が言われましたように、新産業振興指針の内容につきましては、本当に納得だと思えます。ここに食文化の大事な発信などその通りだと思っております。先ほど熊谷さんが言われました中でも、食品王国いしかわをもう少し発展的に持続的にしていくということを我々のテーマにしております。今正直なところですね、小売販売するスーパーとかコンビニとかあるいはレストランなんかはですね、どんどん外部から入っております、せっかく石川の食文化がありながら、だいぶ石川というものとは程遠いものが入っている。例えば、豆腐のいいものがあるけれども、凝固剤を入れた豆腐とか、醤油も一生懸命いい醤油作っているのに安い脱脂加工大豆のものとか、お酒はアルコールを混ぜた純米酒じゃなくてあの手のお酒とかです。コンニャクだったら本当はイモコンニャクだけなんだけれども、ちょっとしたコンニャクを入れて両方混ぜたもの、いわゆる地元の食文化が壊されているか壊すか、あるいは、駅前の近くのレストランへ行きますと加賀の治部煮と書いてあるけど治部煮らしき煮物でして、治部煮からはほど遠いかな我々からは。そんなものがあるんですね。新幹線で来られて石川県へ行って治部煮食べた、治部煮だとかいう風になる危惧をしているんですね。だから食文化あるいはその食品王国というものに何かひとつのですね、ルールと言いますか、食品王国いしかわというものをメイドインパリのような形でブランドにしなければいけない。そういうブランド戦略を県もアピールしていただきたいし、我々もこの方法だったら三ツ星の食品王国いしかわブランドだと。その時には基準を作ってですね、食品王国憲章というものが5つありまして、その5つに沿ったものであったら四つ星とか三ツ星とかですね、そういうものをしていかなければならないと思っております。県のご指導をよろしく願いして、このせっかくある石川県の食文化を外部から壊されないようにする方法を誰よりも頑張っ

てやりたいと思っております。よろしく申し上げます。

【林委員長】

どうもありがとうございます。それでは饗庭委員、よろしく申し上げます。

【I S A 饗庭委員（I T部会副部長）】

戦略的、あえて言うところグローバル企業誘致の推進、ぜひここはご推進をいただきたいなという風に思います。それはこの地がグローバル企業に選ばれるという意味だという風に認識します。大学選びにおいても多くの皆さんがこの地を選ぶということに非常に意義があるのではなかろうかという風に思います。

技術力だけ、体力たる資本力だけではもう東南アジアの人たちをリードできない。そういう中で我々が勝ち残るとするのは、先ほどからたくさん出ておられるお言葉使いがありますが、豊富な地域資源、すなわちここが心の部分が大切だと思うんです。ここをうまく繋ぎあわせられれば、グローバル企業は当地へ進出することを選ぶでしょうし、それが選ばれた勲章になるという風に認識をする次第であります。

これからの5年、企業側から見るとどのように見えるかということ、メガプラットフォームの時代、ひとつのものが今まで考えている以上、もしくは100倍くらいのものに乗っかっていく。車会社のリコールの台数を捉えましても、従来とは全く違う台数がリコールされている。しかし一方で、ひとつのものが大変な数の車に乗っかっている。そういう意味でメガプラットフォームの時代ではないか。それからもうひとつ、人にとって環境にとって豊かな発想がメガプラットフォームに結び付いていく時代ではないか。車は今までは走ればいい、それからエアコンが効く車、最近何が求められるかということ、人間が飛び出てきたときに止まる、それは人間にとって優しい今までにない発想が求められる技術というのがあるかと。そういう時代になっていくという前提で立ち、ぜひここに掲げられました7つの取り組みをどういう形で、いくつかを繋ぎあわせていくという発想でアクションプラン作成をお願いし、かつ、当地は大学が非常に多い地でありますので、ニーズとシーズをうまくコーディネートする政策、それから積極的にチャレンジする企業に対しては支援、このようにお願いできればと思います。

【林委員長】

ありがとうございます。それでは蚊谷委員お願いします。

【石川県伝統産業振興協議会 蚊谷委員（国際展開部会 副部長）】

片山先生のもとで国際展開の戦略の話をしてまいりました。これから海外進出するという企業を含め、既にたくさん海外に出ていらっしゃるわけです。そのところに対する支援を如何にするかという、ここが大事だと思うんですね。そういう点でここに書いてありますシンガポールに石川県の事務所を設置することは、非常にこれはありがたいことだと思

っております。果たしてシンガポールだけでいいのかどうかということもありますけれども、海外への支援を切にお願いしたいなと思います。

また、伝統産業の立場から申し上げますと、石川県の強みと言われている、こういったものをどんどんやっばり前に出さないといけないと思いますね。やっばり内需が減ってきていますから、海外のグローバル化、こういったことを取り込んでいく、これは大事だと思いますね。私どもの金箔ひとつ取りましても、非常に需要の在り方が変わってきておりますから、そんなものをやっていこうとすると今度は、片や需要が出ましても後継者の育成が大変問題になってきている。今後は後継者の育成をどうするかということが伝統産業そのものを発展させていくための大きな課題であると思います。以上です。

【林委員長】

ありがとうございます。それでは深山委員、お願いいたします。

【石川県商工会議所連合会 深山委員】

私はこれにあまり寄与しておりません。大変恐縮でございますけれども、産業成長戦略の今の指針につきましては、まったく異論はございませんが、私の方から澁谷先生に叱られますけれども、中堅企業ばかりではなくて、商工会議所の立場からすれば、やはり中小企業というひとつのそういう、ひとつの戦略的なのが中小企業、日本商工会議所もそういう中小企業を中心とした集まりでございますので、できるだけ中小企業という言葉、あるいは零細企業という言葉は何らかの形で成長戦略とは別の問題として残していただかなければ。

【石川県鉄工機電協会 澁谷委員（機械部会副部長）】

中堅企業と小規模企業と今経産省が言っているのは2つだから、それを3つか4つにしてほしいと、こう言っているわけで。

【谷本知事】

大企業があつてね、国の対策で大企業はもちろんあるけど、その下が中小企業対策なんですね。小規模企業対策になって、中堅企業がスポンと抜け落ちているというところの問題意識を持たなければいけない。確かに中堅企業というのがちょっと欠落しているんですよ。大企業の次はもういきなり中小企業へ行っちゃうから。中堅企業というのは今の経済を支えているということで、そここのところの認識も持っていなければいけない。国の施策は大企業、中小企業、零細企業という、こういう感じになってしまっている。その間に中堅企業というのがあるんじゃないかと。

【石川県商工会議所連合会 深山委員】

私も中堅企業はあると思います。これは大企業のステップ型のね、中堅企業の存在とい

うものが頭にありますし、その下には苦勞していらっしゃる中小企業があるんだということが商工会議所の立場として申し上げております。

それから人材の確保についてのお話も先ほどございました。この成長戦略の中に石川県の場合はいわゆる外国人の労働者の導入的なもの、いろんな法的な規制がございますけれども、そういうものについては検討されたのかどうかということだけ、ちょっとお聞き申し上げたい。

【林委員長】

ありがとうございます。これについて今答えなくてよろしいですね。それでは次、明石委員をお願いします。

【石川県中小企業団体中央会 明石委員】

明石でございます。今回の振興指針につきましては、皆さんおっしゃっておられるとおり、申し分ないという風に私も思っています。問題は先ほどどなたかおっしゃいましたように、具体的なアクションプランですね、このところが非常に大事だということなんですけれども、この項目の中にはですね、従来の継続の内容も非常に多く入ってますので、アクションプランの中での新規性というか、今回ここに力を入れるとか、これも予算の関係もございますので、その辺のところをぜひ十分に検討していただきたいという風に思っております。

それからですね、実は海外市場の拡大につきましては、新興国が非常に重点的になっていきますけれども、実は私もうひとつ思うのはですね、やはりアメリカ市場ですね、ここはシェールガス革命と言われてますシェールガスによって、特にオバマさんなんかでもですね、とにかく本国に帰れということで、大型投資がほとんど国内投資になっていると聞いてるので、特にその辺のところも視野に入れておく必要があるだろうと私は思います。

それからもうひとつ気になるのはですね、本県の強みの中で安価な電力という言葉が入っておりますけれども、今は確かに9電力の中で一番安いんですけども、原発再稼働の状態によっては決してそう言えなくなる状態もありうるだろうと思うんですね。その辺のところもちょっとやっぱり十分注視して見ておく必要があるかと思っております。以上です。

【林委員長】

ありがとうございます。それでは青木委員、よろしくをお願いします。

【クスのアオキ 青木委員（人材部会 副部長）】

我々の会社の最近はですね、IT化を取り上げるわけではないんですが、ネット販売とかいろんな意味で非常に広範囲にも物が出だしていると、これは事実なんですよ。その背景では何があるかと言うとコミュニティがだんだんなくなっているよと。例えばですね、

我々もちょっと子育てでお世話させてもらっているのがあるんですけども、先ほど澁谷社長から言われたことがあるんですけど、今からはですね、高齢者の人たちの知恵を如何に若い人たちに入れていくか。これはどういうことかと言いますと、例えば我々も子育て用のいろんな商材が店頭にあります。そこで20代の子供を産まない人たちが本当にアドバイザーできるのだろうか。あるいは逆に言えばですね、子育てが終わった人あるいはもう少し、60、70になった方も我々の産業の中へ入ってですね、地域の中のコミュニティを非常に強くするような、仕組みができないか。その時に先ほどのいろんな法律的なものがありますけれども、65歳になっても全然仕事がなく家はずっといた場合、かえって体がおかしくなるような、何かいろんなコミュニティの場所の中で働ける場所を我々の中に育てていければ非常にいいのかなという風に思っております。その中で、我々は川下なんですけれども、やっぱり川下の発想の中から消費者のニーズをつかみながらどういう風にしていくかということが大事です。

もうひとつ思ったんですけども、話が別なんですけれども、グローバル化という話が出てまいりました。グローバル化の中で我々日本人が非常に弱いのは、英会話なんです。できたらですね、街の真ん中にも英会話の学べるようなそういう組織対応があればですね、グローバル化に役に立つような人材というのが若くても出てくるでしょうし、また40代でもですね、学んでグローバル化に役に立てる、そういう面では会話というのが非常に今からグローバルの中でいいキーワードになってくると思います。特に我々の年代というのはほとんどしゃべれませんから、国際化には非常に弱い。そういう面では環境づくりというもので何かできてきたらいいなという風に思いました。だから人材の問題とグローバルというふたつの面で思っていることを申し上げました。以上でございます。

【林委員長】

ありがとうございます。それではぐるっと回りまして、田上委員どうぞ。

【石川県商工会連合会 田上委員】

はい、私商工会連合会の田上なんですけども、我々商工会連合会では、おそらく6月の国会で小規模企業振興基本法というのが成立されると私は思っておるんですが、まだ中身については、まだ私も中身が細かく分からないんですけど、非常に石川県のおかげさまで、小規模企業者に対する支援というのが非常にありがたい、力を入れていただいているところなんですけど、今先ほど話も出ましたけど、商工会というのが、どちらかというと小規模企業という、零細企業という会員が多いわけなんです。その会員の皆さん方がいろんな面で地域の資源を活かして、いろんな商品開発をしていただいているので、非常にありがたいんですけど、作っただけでなかなか販路が拡大できないというのが、今一番問題じゃないかなと、ということがひとつと、それから、もうひとつは、なかなかその新開発のところまで取り組んでいけないというのが、余力があるんですけど、なかなか入っていないというのが一番自分の感触では、そういうのは感じるわけなんですけど、そこで是非ひ

とつ、行政の方に、ここに行政に期待することというのが書いていますが、そういったことを是非ひとつこの成長戦略の中に取り込んでいただけないかなと、どうしたら販路開拓、小規模企業の販路開拓、そしてさらには新商品の開発を取り組んでいったらいいのかな、私もこの、今、商工会に経営指導員という職員がいるわけなんですけども、そういう人が今実際53名でしたかね、県内におられる。彼らにもお願いしているのですが、なかなか手が余ってそれ以上突っ込んでいけないというので、そういう問題もありますものですから、ぜひお願いしたいなと思うんですね。非常に県内の方たち、いろんな地域の資源を活かしてものづくりをやっているものですから、そういう面を行政の方では是非ひとつまたよろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。

【林委員長】

ありがとうございます。それでは前田委員、お願いします。

【北國銀行 前田委員代理】

北國銀行の前田でございます。代理の立場で大変恐縮なんですけれども、今回出来ました指針を拝見させていただきまして、石川県の特徴とかですね、時代のトレンドを踏まえた、本当に素晴らしい指針が出来上がっているなというふうに感じます。そういった中で、あとはどうやってこう実行していくのかということだと思いますけれども、それについては、行政とか産業界とかまた団体とかですね、それぞれの立場のところ、どこそこをお願いするということではなくて、自分のところで出来るということですね、しっかりやっていくということが大事なんだろうなと思ってます。この間、私は銀行屋なものですから、銀行界の貢献はどういうことかということなんですけども、幸いですね、現在の金融環境というのは金利の面で見てもですね、銀行を含めた金融機関の融資姿勢という面で見ても、おそらく史上まれにみるですね、緩和的な環境というか、もうちょっと属っぽく言えばめちゃくちゃお金の借りやすい環境になっているということだと思っうんですね。且つ、今現在そういうことなんですけれども、当分はですね、そういう環境が続く可能性が高いということなんですけども、そういったことを踏まえますと、是非産業界の方にはですね、こういったこの有利な金融環境がうまく使っていただいてですね、何かやるんだったら今でしょというふうな感じでですね、取り組んでいただければありがたいという風に思いますし、私ども銀行もですね、一生懸命提案等させていただければというふうに思っております。以上です。

【林委員長】

ありがとうございます。そうしましたら、村本委員の方から一言ずつさっと回しますの、先ほどの説明がありましたけれども、簡潔に何か。

【石川工業高等専門学校 村本委員（IT部会長）】

アンケートを、企業さんにとったアンケートによると全分野にわたっているのが、人材の不足ということで、石川県には高等教育機関が沢山ありますが、その人材が石川県に残るように、それから就職した学生が早期に離職しないように、そういう政策が必要かと思えます。

【林委員長】

ありがとうございます。次、勝田委員どうぞ。

【金沢医科大学 勝田委員（繊維部会長）】

私はこの一年間、石川県の繊維産業のトップの方々と色々率直な意見を交わす中で、つくづく感じたことは、石川県の繊維業界は非常に高い技術力を持っており、また、豊かな感性を持っているということです。そういった強みを何とか生かせるような政策が出来ればいいと思っております。しかし、これは一人の傑出した人材、あるいは一つの企業だけでは、各企業が成果を上げ、成長していくことは難しく、繊維業界だけでなく、やはり色々な方、異業種・異分野、あるいは産学連携など、いろんなネットワークを作って連携・協力するということが極めて大切ではないかなというふうに思っております。そういう中において、素材の開発から新製品の開発、それから海外での販路も含めて、販路の開拓などいろんなステップを経て、一人一人のお客様のところに製品が届くわけですが、これらの多くのステップに、やはりどうしても石川県の強いご支援が必要であり、色々な設備投資、あるいは人材育成の面も含めて、ぜひ石川県にはそういった手厚いご支援をお願いしたいと思っております。以上でございます。

【林委員長】

ありがとうございます。それでは石川委員お願いします。

【金沢工業大学 石川委員（機械部会長）】

先ほどの説明では10分とりましたので、誠に申し訳ありませんでした。しかし、機械分野というのは県内の7割を占めることから、当部会では非常に熱心なご議論をいただきました。そして、さらに機械分野を発展させていくには、「多軸化」ということが大事だと思います。そのためには県の方向性もこれに沿う必要がありますので、ぜひともそのあたりを実質化出来るようにしていただきたいと思えます。

【林委員長】

どうもありがとうございます。

【石川県立大学 熊谷委員（食品部会長）】

食品に関しましては、佃会長から食品王国という提案がありますけれども、この石川県

の本当に最も魅力的な外に訴える力の強い特徴であると考えています。ただし新しいものを作って、それを売っていくことに関しましては、やはり大学と企業の非常に強い連携がこれから必要であると思っております。まだまだここは不十分だと思っております。その辺の仲介を県の方で考えていただけたらいいと思っておりますが。それから人材に関しましても、ぜひとも県と一緒に育てていく、あるいは取っていただいて、卒業後も育成に努めるということと一緒にやっていくという体制が必要だと思えます。さしあたってはインターンシップの強化、そういったことを具体的にやっていく。それに関して県の方も助けをいただけたらと思っております。そういったいっぱい柱がありますけども、そういったひとつということではなくて、どれもお互い関係のあることであるということですので、それをない交ぜにした状況で進めていくことが大事だと思っております。

【林委員長】

ありがとうございます。それでは片山委員。

【北陸先端科学技術大学院大学 片山委員（国際展開部会長）】

国際展開部会でも第一の柱が人材基盤です、ここには3つほど政策の例示がされていますが、ディスカッションの中では、もうちょっとグランドレベルの話で、先ほど出た英会話ができない、英語が出来る人材が少ないので海外に出にくいということが何回も何回も繰り返されてきたと思います。これを解決するには教育しかないのですが、我々の県は大学の集積が多いところですので、是非、大学では徹底的な英語教育をやっていただいて、わが県を支えるのと同時に、そういうような英語のできる人材を必要とする他の県にも人材を派遣できるくらい、優秀な人材、グローバル人材をわが県が輩出するという意気込みでやっていくことが重要だと思えます。それから、先ほど饗庭委員の方から立派な海外の企業に来ていただくということがありましたが、それもすごく重要だと思っております。ただ黙っていても来ないので、そのための税制の優遇であるとかをやって、我々の県が食品とか伝統産業とかという地域資源を持っているのと同時に、グローバル化、国際化に関しても、日本の中で抜きんでた県になるということが重要ではないかと感じました。

【林委員長】

どうもありがとうございます。それではどうぞ。

【金沢大学 中村委員（人材部会長）】

先程、知事さんから、人材集積が「いの一番に大事だ」というお話しがございました。また、村本先生からは、人材が石川県から逃げないようにとの話しがありました。そのためには石川県は住みやすい、若い人が石川県に住みたいと、こういうふうなインフラを整備して頂くことが非常に大事かと思っております。もう1つは、国際化に関係しますが、小松空港のより一層の国際空港化。昨日の新聞にはタイとの年4回のチャーター便がでてお

りますけれども、できるだけ早い時期に定期便にさせていただくと、優秀な人材も集まりやすいし、優秀なグローバルな人材も育つことにもなる。

さらに、産学官ということであると、里山事業が非常に行政と近く、うまくコラボートし、発展いたしました。また、金沢工業大学を中心とした炭素繊維もできました。もう1つ石川県ではですね、電力があるんじゃないかと思います。太陽光発電、そしてまた振動発電。それもまた大きな非常に重要な動きでありますので、ぜひ、産学官で、発電の事業を視野に入れていただきますと、私としては大変嬉しく思います。以上でございます。

【林委員長】

どうもありがとうございました。一通り委員の方々からご意見をいただきました。皆さん並べてこの戦略素晴らしいねという声が聞こえてきて、6部会の委員の皆様方、大変精力的にまとめていただいて御礼を申し上げたいと思います。

しかしながら、素晴らしい反面、出てきたのは実行も大事だし、支援も大事だよという話が出てきておりますので、それを今日いただいた最後のところ、かなり繋ぎの部分が非常に多くて、それが非常に重要なポイントですので、それをどんな風に盛り込むかということが考えていかなければいけないんだろうと思います。その辺のところは単に出すだけではなくて、何をするかということも含めて当委員会の役割としたいとこういう風に思っております。